

学びの多様化プロジェクト2024-2028 (案)

2023年12月

町田市教育委員会

学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ

00 はじめに

教育長メッセージ

近年町田市においても、不登校により学校を休んでいる児童・生徒が急増しています。全国的な動向も踏まえ、教育の現場において不登校という登校の形があると認識すべき、とも思われます。

その中でも、将来自立し、自分自身の人生を歩むために身につけなければいけないことがあります。学校を休んでいることと学ぶことを一度分けて考え、町田市のすべての子どもたちにとって学びの場が行き渡ることを目指し、本プロジェクトを策定しました。

このプロジェクトが、子どもたちの健やかな成長にとって、応援として届くことを願っています。

2023年12月 町田市教育長 坂本修一

教育プラン2024-2028

－教育委員会の上位計画－

学びの多様化プロジェクト2024-2028

不登校のための対応マニュアル

改訂
予定

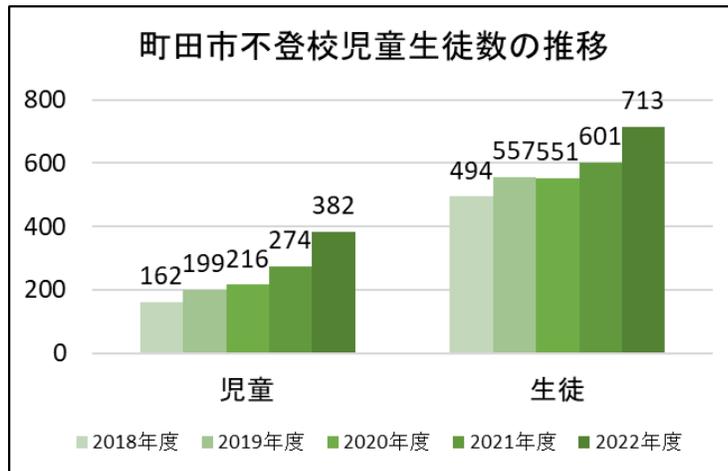
－学校内での対応に関する具体的指針－

※学びの多様化プロジェクトの位置づけ

「学びの多様化プロジェクト」は、教育委員会全体の政策について定める「教育プラン」を受け、不登校施策について具体的に取り組む事項を示すものです。

01

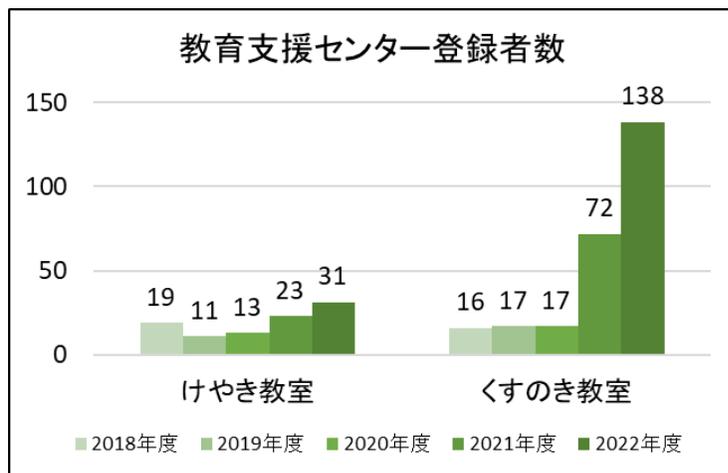
不登校支援の現状



町田市における年間30日以上欠席の不登校児童・生徒数は、増加傾向が続いています。

従来、不登校児童・生徒の学びの場として、教育センター内に教育支援センターを運営して来ました。小学生用のけやき教室と中学生用のくすのき教室があり、いずれも少人数による学習支援や体験活動を実施しています。民間事業者による一部委託化を進めることで、受け入れ人数の拡大を図っています。

スクールカウンセラーを複数中学校に配置したり、スクールソーシャルワーカーを増員する等、学校における相談体制の強化にも努めてきました。2023年度には、教室に入りづらい生徒の居場所となる、校内教育支援センターの運営を始めています。



町田市の不登校施策を総括し、今後取り組むべき事項を精査するため、2022年度に有識者による「学びの多様化施策検討委員会」を立ち上げました。委員会において検討した、子どもの学びの場の確保の取組について、本プロジェクトで示します。

全国的に不登校児童生徒数は増加傾向が続いており、2022年度には前年度から22.1%増加し、過去最多の299,048人となりました。

文部科学省では、不登校により学びにアクセスできない子どもたちをゼロにし、一人一人に応じた多様な支援を行うため、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を策定しています。

02 基本方針

学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ

不登校は学校を休んでいる「状態」を表す言葉に過ぎず、子どもたちは不登校というプロセスを経て、それぞれの自立に向かうと考えられます。町田市では、不登校支援は子どもの育ちを支えるプロセス支援であると捉え、相談先や学びの場等に繋ぎ、継続的に支援を行います。そのため、不登校施策の基本方針として「学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ」を掲げます。

学校に行く子も行かない子も、将来的に自立し、自分自身の人生を歩みます。そのためには基礎学力だけでなく、人と関わるコミュニケーションスキルや社会生活上必要なソーシャルスキルを身に着けることや、適切な進路選択ができることが必要です。学校を休んでいることで、これらの学びの機会を失うことがあってはなりません。

学校に行かない子どもたちの状況は様々です。必要な学びの内容や、どのような場であれば参加できるかなど、状況に応じて支援は異なります。現在、市内に1か所である教育支援センター（けやき教室・くすのき教室）だけでなく、多様な学びの場を確保していくことが必要です。

また、学びの場が増えても利用できなければ意味がありません。どのような支援があるのか、何が児童・生徒に合った支援なのか等について適切な情報提供や、支援につながるための相談が大切になります。多様な学びの場の確保とともに、そのような場につながるための仕組みづくりにも取り組めます。

03 多様な学びの場と支援

子ども一人ひとりの状況により、必要な学びの場や支援は異なります。

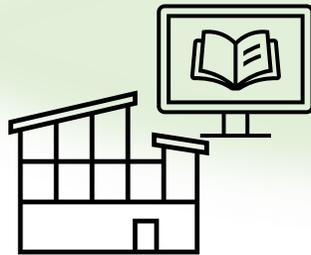
町田市では、多様な学びの場を確保しながら、各機関が連携をとりつつ、子どもと保護者の支援を行います。

【学びの多様化学校】

不登校児童・生徒に配慮し、授業時間や内容を工夫した学校です。2025年度に分教室型学びの多様化学校を開設します。

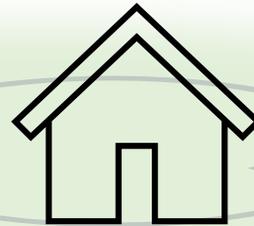


【教育支援センター分室】
地域にある、小さな教育支援センターです。2024年度から始まります。



【教育支援センター】

教育センターの中にある、学校に行きにくい子のための教室です。2024年度以降、オンライン対応を始めます。



【教育相談】

教育センターの中にある相談機関。電話相談と来所相談があります。



【校内教育支援センター】

学校の中にあり、在籍する学級には入りにくい子のための居場所です。

【校内専門職】

学校の中で本人や保護者が相談することができます。

*用語解説：相談先

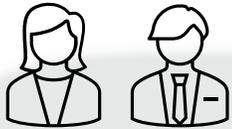


学校の中には、勉強を教える先生以外にも色々な専門性のある職員がいます。学校を休んでいるときに相談できる人としては、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーがいます。

学校の中では相談しにくいときには、教育センター内に教育相談があります。

いずれも、学校や教育支援センター等と連携しながら相談に対応しています。

※最終ページのQRコードから、町田市の支援機関一覧と連絡先を見ることができます。



【スクールソーシャルワーカー】（SSW）

教育センターから学校に派遣される、福祉の専門家です。社会福祉制度や地域福祉に関する情報・知識をもとに、相談に対応します。学校の管理職を通じて申し込みます。家庭訪問等アウトリーチの対応ができます。



【スクールカウンセラー】（SC）

学校の中にいる、心理の専門家です。決まった曜日に勤務していることが多いです。SCの相談申込については、学校により手続きが異なります。校内での児童・生徒の様子を直接見ることができます。



【教育相談】

教育センターの中にあり、子どもの教育的課題に対して心理専門職が相談に応じています。来所しての相談と電話での相談ができます。学校での相談が難しい場合や、子どものカウンセリングが必要なときに利用します。

*用語解説：学びの場



学校以外の学びの場を考えるときには、お子さんの様子や希望を聞きながら選ぶことが大切です。クラスには入らなくても友だちには会いたい子は校内教育支援センターが良いかもしれません。学校関係の人には会いたくない場合は、教育支援センターや学びの多様化学校が向いています。

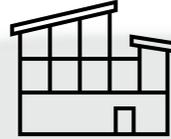
それぞれの状況に応じて適切な場を使っていただくため、多様な学びの場を整備していきます。



【学びの多様化学校】

不登校児童生徒に配慮した授業を組む学校です。在籍学校以外へ再チャレンジする場となります。授業開始を遅く設定したり、少人数授業で学習の遅れを取り戻すなど、一人ひとりの状況に応じた学びが可能です。2025年度から、先行して教室単位の「分教室型学びの多様化学校」を開設します。

教育支援センター分室を併設し、不登校施策の拠点とします



【教育支援センター】

教育センター内に設置された、学校に行きにくい子のための教室です。少人数での学習や、体験活動ができます。今後オンラインの対応にも取り組んでいきます。またより通いやすい地域の居場所として、2024年度から分室の運営を始めます。

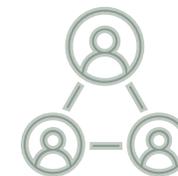


【校内教育支援センター】

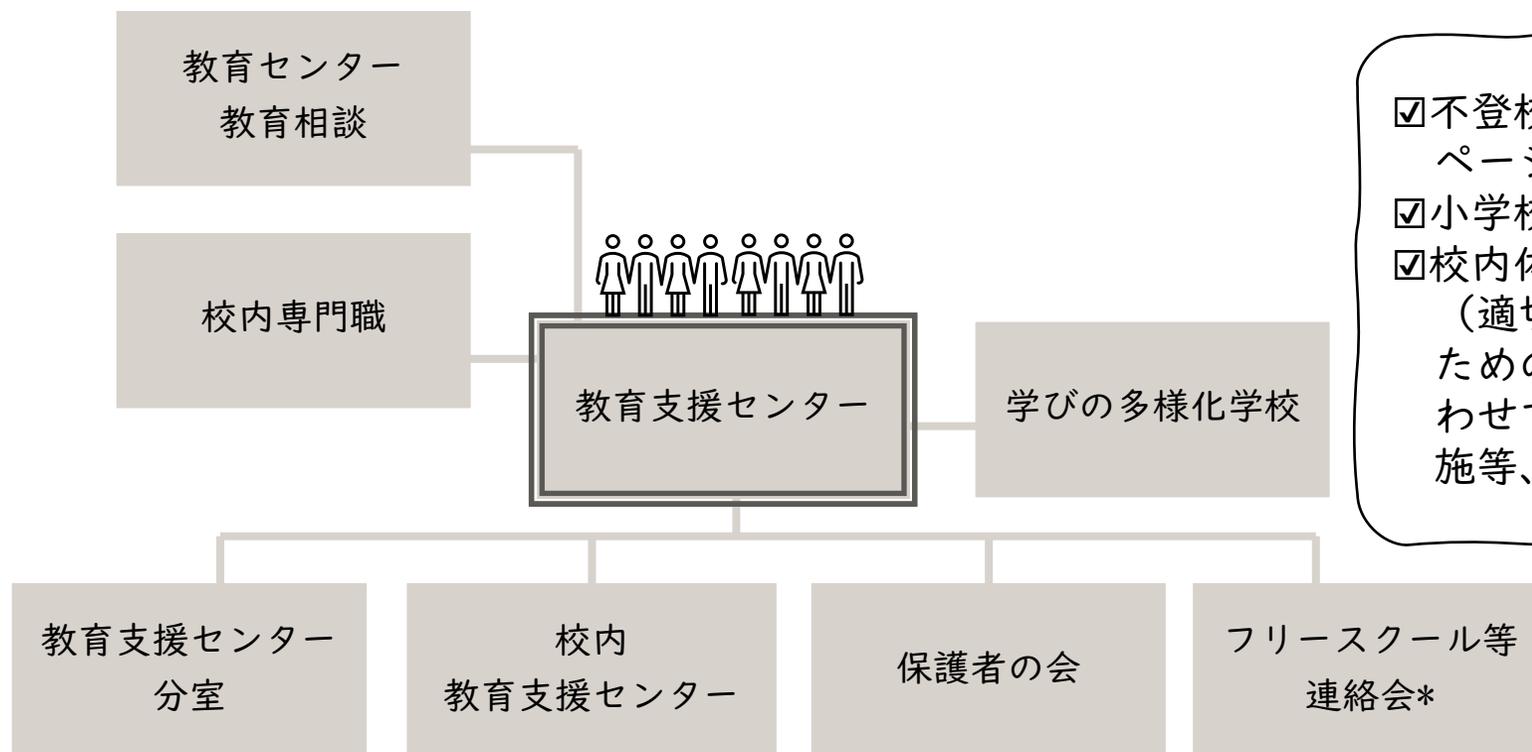
2023年度からモデル校で開始した、校内にある学級以外の教室です。在籍学級に入れなくても、学習指導を受けることができます。ニーズ把握や実績を精査し、今後の運営について検討します。

04

つながる仕組みづくり



多様な学びの場があっても、そのことを知らなかったり、どこが適切か分からなかったりすると、利用することができません。必要な情報が必要な方に届くよう、身近で相談できる専門職や、保護者が情報を得る機会を確保します。そのためにも、教育支援センターで不登校施策を総括する役割を担い、相談と支援と連携を適切に行います。



- ☑不登校に係る情報の一元化及び、ホームページでの公開
- ☑小学校・中学校を通じて情報の配付
- ☑校内体制の強化
(適切に情報提供できるように、「不登校のための対応マニュアル」を改訂します。あわせて、校内専門職等を活用した研修の実施等、学校全体の相談機能を高めます)

*フリースクール：一般に、不登校の子どもに対して学習・相談等の活動を行う民間の施設を言います。

05

保護者支援



それぞれの子ども状況が異なるため、保護者の方に必要な情報や支援は異なります。情報の集約やホームページ等での公開だけでは、いざ必要となったときに見つけれないことがあります。

校内専門職の活用することで、学校全体への周知を徹底し、身近な人を通じて支援につながれるようにします。

また保護者の会の実施や、進路相談会等の企画を通じて、様々な立場にある保護者とつながることを目指します。

保護者の会の実施について：

教育支援センターでは、保護者会や学習発表会など、保護者の方を対象とした行事があります。

お子さんが教育支援センターに通室していない方が参加できる保護者の会については、2024年度以降、新たに情報提供や交流を目的として実施する予定です。

※不登校生徒の進路について：

教育支援センター（くすのき教室）に在籍する生徒のほとんどは、高校へ進学しています。色々な学校がありますので、生徒のできることを考慮しながら、希望に合った進路選択のお手伝いをしています。

なお、学びの多様化学校では他の市立学校同様、成績が付き、幅広い進路選択が可能です。

06 スケジュール



<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>教育支援センター分室開設<input type="checkbox"/>保護者の会実施<input type="checkbox"/>校内専門職の増員<input type="checkbox"/>不登校施策実態調査	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>分教室型学びの多様化学校開設<input type="checkbox"/>校内専門職の増員	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>学びの多様化プロジェクト改訂	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>教育支援センター分室②開設<input type="checkbox"/>校内専門職の増員<input type="checkbox"/>学びの多様化学校設置委員会	<ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/>学びの多様化学校開設準備<input type="checkbox"/>学びの多様化プロジェクト2029-2033策定
---	---	--	--	--



※「学びの多様化プロジェクト」は、5年間を一つの期間とし、その間に取り組む支援策を定めています。しかし、子どもたちに必要な支援・施策は社会情勢も含め、常に変化すると考えられます。本プロジェクトでは不登校施策の状況を常に確認し、中間時に改訂版を策定します。そのため、上記スケジュールは今後変更になる可能性もあります。

町田市における 不登校児童生徒支援の流れ

1963年	教育相談開始
1988年	相談学級設置（2020年度まで）
2003年	けやき教室設置
2004年	教育センター設置
2013年	くすのき教室設置 スクールソーシャルワーカー配置
2020年	市独自スクールカウンセラー配置
2022年	町田市不登校施策検討委員会設置
2023年	校内教育支援センター運営開始 「学びの多様化プロジェクト」策定



【委員会からの意見】

不登校をめぐる状況の変化に適切に対応するため、2022年度に町田市の不登校施策を集約、総括するための有識者会議として「町田市不登校施策検討委員会」を立ち上げました。

教育や医療、福祉、心理領域等の専門家を含め、学びの多様化を推進するための施策について「学びの多様化プロジェクト」の策定など、子どもたちにとって適切な支援を検討しています。

- ◎子どもが通いたくなる、魅力ある学校であることが大前提
- ◎最初にどのような支援が必要かアセスメントすることが大切
- ◎市として実際にできることから取り組む
- ◎居場所だけでなく将来につながる支援が大切
- ◎支援から次の支援につながる際の橋渡しを丁寧に
- ◎保護者支援だけでなく、研修も含めた学校支援が必要
- ◎不登校支援についてSNSによる情報発信も有効
- ◎子ども自身のニーズ把握が必要

町田市不登校施策検討委員会における意見や、2024年度実施予定の当事者調査の結果を踏まえ、今後も町田の子どもの育ちを支える施策を継続的に検討し、取り組めます。

町田市教育委員会発行



不登校に関する相談先情報

QRコード